

平成 23 年度学力試験問題の「出題意図」・「評価ポイント」について

国 語【昼間コース 一般入試：前期日程】	
出題意図	評価ポイント
問題一	問一 少し古いた文脈のものではあるが、きちんと文意に即して適確な漢字に変換できること。
	問二 同じく、きちんと文脈を理解して正しく漢字を読み取れること。
	問三 筆者の文体に合わせて、日本の近代における欧米文化の受け入れと江戸まで連綿として培われてきた日本のコミュニティのあり方との衝突について文学的知識を交えて理解できていること。
	問四 「筋の通った主張」をきちんと文脈にそって理解できていること。
	問五 筆者の主張をきちんと自分の言葉で表現できること。
問題二	問一 古文でよく見られる古語の漢字について、正しく丁寧に書いていること。
	問二 線部の前の文脈・述べられている状況を把握し、正しく説明できていること。
	問三 本文の内容と古典文法、重要な古文単語を理解しつつ、正しい現代日本語に訳していること。

	<p>る。また、文字や文章を正しく丁寧に書いているかを見る。</p>	問四	<p>古典文法を踏まえつつ、文脈、場面の状況を把握し、正しい現代日本語で説明できていること。</p>
		問五	<p>『枕草子』関連の古典文学上の事柄について、基礎的な知識を持っていること。また、有名な『枕草子』第一段の文章をある程度記憶していること。漢字・かな等の文字を正確かつ丁寧に書いていること。</p>
問題三	<p>現代の市場経済を巡る保守主義とリベラリズムの立場の相違を明快に解説した文章である。文体は比較的平易であり、経済学的知識がなくとも、高校卒業程度の国語読解力があれば、内容は的確に理解できる。その理解の程度、及び基本的な国語力が身につけているかどうかを見る。</p>	問一	<p>きちんと文意に即して的確な漢字に変換できること。</p>
		問二	<p>基本的な4文字熟語を知っていること。</p>
		問三	<p>周囲の文章を的確に読み取り、的確な表現を空欄に埋められること。</p>
		問四	<p>下線部の表現を的確に判断し、文中の他の語句を用いて的確に表現できること。</p>
		問五	<p>基本的な同意語を文中に見つけられること。</p>
		問六	<p>文語的ではあるが、基本的な言い回しを知っていること。</p>
		問七	<p>経済学的な用語であるが、文中の語句を用いて簡潔に表現できること。</p>
		問八	<p>問題文全体を包括的に理解できていること。</p>

問題四	<p>問題文は名文としてよく知られた詔であり、用字や表現も標準的な漢文作品である。その中で用いられる漢字の意味を文脈に即して理解できているか、基本的な漢文法を修得しているかどうかを問うた。また、作品に述べられる伝統的な考え方を読み解き、適切な表現で説明できるかを見る。</p>	問一	ひらがな・現代かなづかいという条件をふまえ、文法上重要な文字の読み方を正しく答えていること。
		問二	日常生活でも用いられる漢字の意味を正しく理解していること。特に多義語の意味を文意にそって理解できること。
		問三	日常生活で常用される漢語の意味を正しくとらえ、文の構造を読み解けること。
		問四	漢文の常用表現を文語文法に則って書き下し文にできること。
		問五	漢字の意味を正しくとらえ、文脈に合った日本語に訳せること。
		問六	作者の意図を十分に理解し、的確な説明ができること。